

E 17

データベースによる家政学研究の分析

大妻高校。徳増レゲ子，大妻女大家政 大竹智恵子 大森正司 岡田安代  
岡本順子，岐阜大教育 長野宏子，東京農大 加藤みゆき 吉村典夫，  
図書館情報大 佐々木敏雄

目的 家政学における研究は，自然科学，人文，社会の各分野にわたり，その研究内容は複合技術の研究が多くなってきている。先に 家政学雑誌における論文題目を，科学技術分類表（CST）を用いて分析，次に要素技術連関解析手法で検討し，家政学における研究状態の一端が明らかとなった。更に，データベースとして家政技術分類表（CHE）を作成し，研究課題のより詳細な分析を行い報告した。従来の研究においては，家政学雑誌に掲載された論文の研究課題のみを用いて解析を行ったことから，今回は研究目的，方法も対象にし，課題数も約240件を分析し，より詳細な知見が得られたので報告する。

方法 日本家政学会総会，講演要旨集 1979年～1983年の5年間，約240件の研究課題  
目的，方法を対象にデータベース（CHE）を用いて検討した。すなわち，CHEによるインデクシング→マーク→入力→ファイル→解析の手順で行い，出現頻度，共出現頻度，連関度を算出し，解析に資した。入力については，外国文献社製Pasky III-9を用いた。

結果 ①従来においては，研究課題のみを用いてインデクシングを行ったが，今回は目的，方法をも含めてインデクシングを行ったので家政学の研究内容について，より詳細な知見が得られた。すなわち，研究条件，研究対象，方法に関する標数が多く認められ，家政学研究の特徴を把握することができた。②一課題数あたりに付与された標数は，課題だけを用いた場合の2～3倍であった。